

情報リテラシー教育における Webテキストの導入効果について

川本 勝

About the Introduction Effect of the Web-text in the Information Literacy Education

KAWAMOTO, Masaru

Abstract

A hybrid class is performed by using a Web-text for the supplement of the textbook which is made by the Web-page on the Google-site of our university. As the results, the follows are resolved. The evaluation of students about the Web-text is good. Especially, it is recognized that the Web-text is able to be looked again and again anytime at own pace, also in each home by them. And, they recognize that it is enough for the class to use only the Web-text. The student who feels that the class is difficult also feels that the Web-text is very good. But, the student who feels that there is much quantity of problem does not feel the same, and, can not get good results. So, further more explanations in the details about the editing functions of the WORD document and about the problems are required in the Web-text. From the above results, it is resolved that the use of the Web-text is popular with my students and a bigger effect will be provided, if the contents of the Web-text are developed more.

要 約

教科書の補足に大学のGoogleサイトにWebページで制作したWebテキストを用いてハイブリッドな授業を行った。その結果、以下の事が判った。受講生のWebテキストへの評価は良好である。特に、「いつでも、家でも、何度でも、自分のペースで見る事が出来る」事を評価している。そして、授業はWebテキストだけでも良いと認めている。授業が難しいと感じている受講生は、Webテキストがとても良いと感じている。しかし、課題量が多いと感じている受講生は、Webテキストがそれ程良いとは感じておらず、課題点も良くな

い。従って、Webテキストで、WORD文書の編集機能と課題の説明をより充実させる事が求められている。以上の結果から、Webテキストの利用は学生にも好評で、その内容をより充実させればより大きな効果が得られる事が判った。

キーワード

Webテキスト (Web-text)
情報リテラシー教育 (Information Literacy Education)
アンケート調査 (Questionnaire)
Google サイト (Google-site)
WORD

序 論

筆者は長年にわたり担当する科目でWebテキストを制作し、授業で使用して来た(川本2000、川本他共著1999・2000)。

筆者がWebテキストを制作し使用する理由は、Webテキストは受講生各自のPCでブラウジングされることで、教室で使用される黑板やプロジェクタースクリーンが全ての受講生に一律に良く見えている訳では無いという弱点を補う事が可能で、また、受講生自身のスピードで読み進める事も可能で、授業時間外での自習効果をも高め、合わせて、受講生の達成度を高める事が出来るからである。

勿論、従来プリント類に比べ、Webテキストは印刷作業が不要な分、授業の準備に掛かる筆者の労働は劇的に合理化され、合わせて大量の印刷紙をエコできている事も最大の長所の一つである。

今回、筆者は尚美学園大学で担当する情報リテラシー について、大学構内に導入されているLANとGoogleAppsのサイトを利用して同授業の教科書を補足するWebテキスト(授業では、Webノートと呼んでいる)を制作し、授業で利用した。GoogleAppsのサイトは、専門知識も初期知識も一切不要な極めて便利なアプリである。

前期授業期間の最後にはアンケートを実施し、出席率および課題点、タッチタイピングと定期試験の結果、成績等とを合わせて分析し、Webテキストの導入効果を調べたので、その結果を報告する。

1.Webテキスト

玉木等はその代表的な著書(2010)の中で、電子媒体を利用した学習手段の一種である所謂eラーニングに関するそれまでの内外の研究を広くまとめているが、Webテキストという用語はまだ出現していない。一般にeBook(電子書籍;ここにいうeとはelectronicという意味である)と呼ばれるものの内、特に教科書を目的としたもの、あるいは、授業で使用する事を前提に制作されたものをeTextという。これは、従来、CAI(Computer Assisted Instruction;コンピュータ支援

教育)でコースウェアと呼ばれて来たものの一種である。このeTextの内、特にWebページ形式で制作されWebブラウザで見ることが出来るものをWebテキスト(Web-Text)と言う。Webテキストを用いた社内教育の事を特にWBT(Web-Based Training)とも呼ぶ。

Webテキストは、インターネットないしはLAN等のネットワーク上のWebサーバに記憶され、Webブラウザを用いてそのサーバにアクセス可能であれば、何処からでも・いつでも・誰でも・任意に・繰り返し・閲覧できる。従って、紙や印刷が不要で有る事が大きな長所の一つである。また、Webテキストは、ネット上のコンテンツであるので、その知識さえ有れば、制作や修正は極めて簡単で、利用後のフィードバックはほぼリアルタイムに出来るが、教師にとって、この事は極めて画期的で、紙媒体の教科書を圧倒する長所の一つでもある。しかし、従来、Webページを制作するにはHTML(HyperText Markup Language)と呼ばれる所謂コンピュータ言語の一種を習得するか、もしくは専用ソフトが必要であったため、ほとんど普及していないのが現状である。

筆者が情報リテラシー・を担当する尚美学園大学では、構内にLANが無制限で構築されており、更に、学生ないしは教員であれば誰でも・何処(自宅)からでも・いつでも、任意にGoogleAppsが利用できる、他大学と比べても抜きん出た極めて便利な環境にある。しかも、このGoogleAppsには、メール機能だけではなく、サイト(Site)と呼ばれるWebページ機能が付加されている。

特に、このGoogleAppsのサイトはWebページではあるが、HTMLの専門知識は一切不要で、WORDの初歩的な知識程度が有れば十分に利用できるのが大きな長所である。

筆者は今回、このGoogleAppsのサイトを使用してWebテキストを制作した(図8~10参照)。

2. 調査の対象と方法

2.1 調査対象

調査対象は、筆者が制作したWebテキストを利用した、筆者が担当する情報リテラシーの受講生クラスのみとした。同クラスの学生は38名で、全員が総合政策学部にも所属している。その内、女性は13名(34.2%)であった。同じく、3名(7.9%)は総合政策学科の1年生であり、その他35名(92.1%)はライフマネジメント学科の1年生である。年齢分布および現役・浪人の別は、データが無い為、不明である。

2.2 調査方法

Webテキストの導入効果を、受講生に対するアンケートとタイピングテストおよび定期試験の結果、課題点、出席率、前期の成績結果等から分析し評価した。

3. 出席率

授業は、1週当たり2時限連続で15週、合計30回であったが、4月に開講当初の第1回目は履修登録の前であった為、出席は1回分と見なされている。従って、合計は29回となっているが、実

際の授業は30回であった。

受講生全員の出席率ヒストグラムが図1である。受講生全体のおおよそ79%は出席率が80%以上であり、出席率100%も14名(36.8%)いた。出席率が60%未満は僅か4名で、受講生全体の10.5%であった。

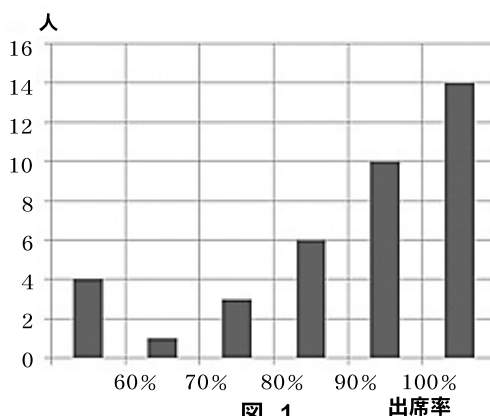


図1 出席率

一方、受講生の出席者数と欠席者数の推移が図2である。図から明らかなように、授業が進むに従って、欠席者がやや僅かながら増加する傾向であったが、最終的には、回復した。

全授業回数での平均出席率は、87%であった。

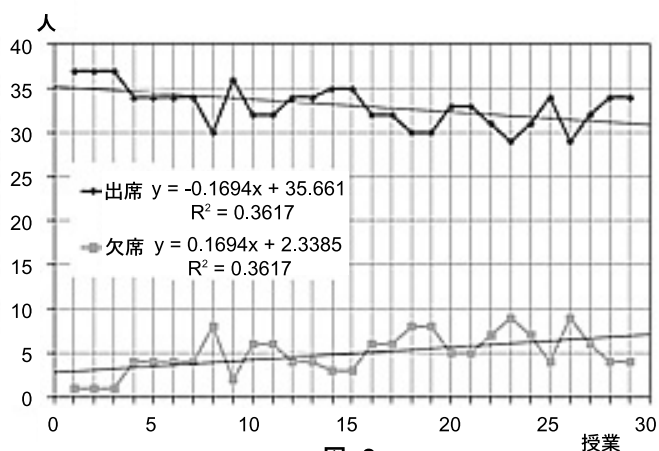


図2

4.課題

情報リテラシーという科目の趣旨からして授業自体がパソコン実習主体の科目であるので、課題は授業開始当初から授業毎に1個以上設定し、合わせて30課題を実施した。その内、履修登録の期間中に実施した課題等は成績評価から除外し、残りの25課題を成績評価の対象とした。

その結果得られた受講生全体の課題点(100点満点)のヒストグラムが図3である。100点は14名で受講生全体の36.8%。80点以上は29名で受講生全体の76.3%であった。なお、60点に満たない者は僅か4名で、受講生全体の10.5%であった。

なお、開講当初からの課題未提出率の推移が図4である。この図には、評価対象から除外した開講当初から5回目迄の課題も含まれている。

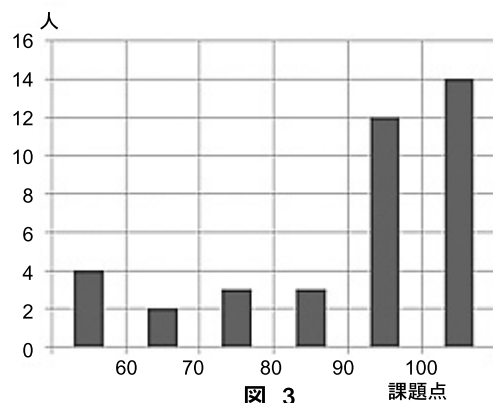


図3 課題点

全体的傾向として、授業が進むに従って未提出率が上昇しているが、Blogger、履歴書、教科書の Word 編の編末にある Word 練習問題、Powerpoint 最終課題等の Big 課題で特に未提出率が跳ね上がっている。

なお、全課題での課題未提出率の平均は 16.2% であった。

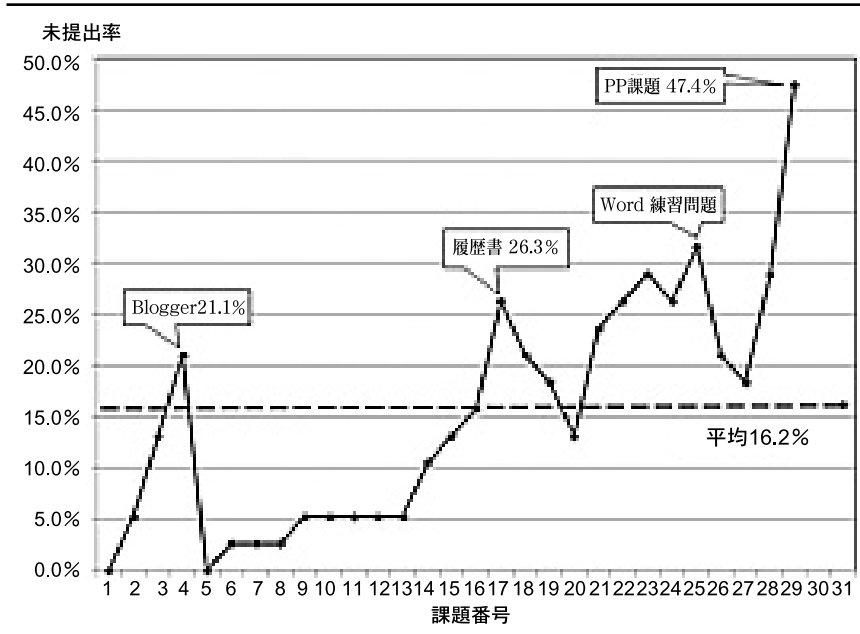


図 4

5. タッチタイピング

5.1 タイピング練習

タッチタイピングの方法は Web テキストを用いて説明し (図 5)、授業の最初に 30 分間、タッチタイピングの練習を 3 週の授業にわたって行った。

タッチタイピングの練習はネット上で無料配布されている美佳タイピング (図 6、今村 1992) を利用した。

練習の目標は 10 分間で 750 文字以上の入力とした。



図 6



図 5

5.2 テスト方法

タッチタイピングの練習効果は大学指定のタイピングテスト用ソフトを用いて評価した。

5.3 テスト結果

タイピングテストの結果は、受講生38名中、欠席6名、出席32名、提出ファイルの無効2名で採点有効は30名であった(表1)。

その結果、所定時間10分に750文字以上を入力できたのは16名で、採点有効者30名中の53.5%であった(表2)。なお、入力文字数別ヒストグラムは図7の結果になった。

表 1

	人数
受講者	38
欠席者	6
出席者	32
ファイル無効	2
採点有効	30

表 2

入力文字数	人数 (%)
< 750	14 (46.7%)
≥ 750	16 (53.3%)

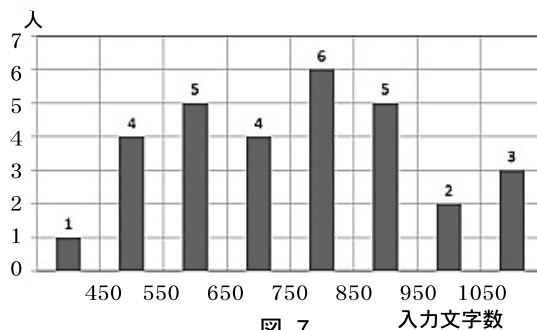


図 7

最高は1356文字、最低は345文字、平均は778.4文字であった。

6. 定期試験

6.1 試験内容

定期試験は、情報リテラシー という科目の趣旨を考慮して、実技試験とした。

また、その内容は、情報リテラシー を履修する本来の目的を考慮して、「雑誌記事を読んで、その要約レポートを作成する」事とした。

問題の材料は、受講生の誰もが未だ一度も読んでいない雑誌記事を選定する必要性から、一般学生が購読する筈の無い特定会員誌；日本航空(株)発行のアゴラ7月号から選定した(三枝・中庭2012)。

ちなみに、今回、問題の材料に選定した同記事「うなぎの危機」は、その後、土用の丑の日も有り、現在に至って、マスコミなどで盛んに見聞されるホットトピックスになっている。

試験問題は、図8のように、Webテキストに設定した。

試験の内容は、Webテキストに添付された資料(図9)を読んで、同じくWebテキストに貼付

The screenshot shows a web-based exam interface for '情報リテラシー I'. On the left is a vertical menu with tasks numbered 00 to 15. Task 15, '総括: 前期実技試験', is selected. The main area shows the task details: a question about creating a summary report from a magazine article, a list of 9 formatting requirements (e.g., font size, margins, page count), and a preview of the article 'うなぎの危機' (Ungui no Kiseki) with a table and charts. Below the preview is a note about saving the work and a browser window showing the article's URL.

図8

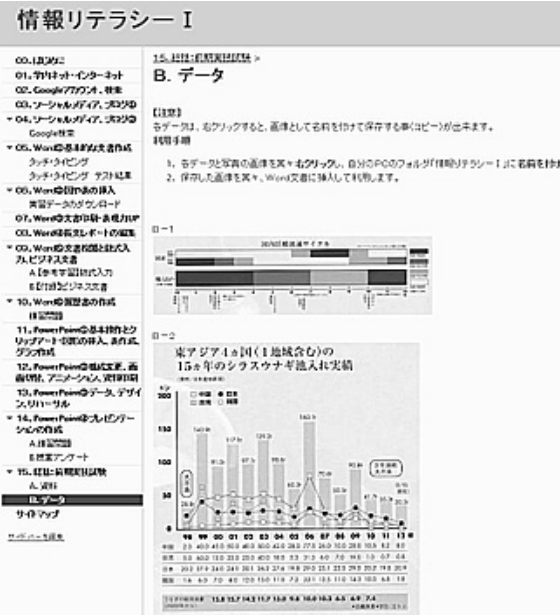


図 10

されたデータ(図10)を用いて、要約レポートをWordで作成するというものにした。

6.2 試験結果

前期の定期試験は、全受講生38名中、4名が欠席し、受験者は34名であった。

答案として受講生がWordで作成した「要約レポート」の採点ポイントは、大きく分けて、文章入力能力と文章編集能力の2つに分けられる。

まず、文章入力能力の採点結果のヒストグラムが図11である。

試験問題として課した、「要約を700字以上800字以内で書くこと」ができた者は僅かに6名(17.6%)のみであった。規定の800字を超過してしまった者も1人(3%)いたが、400字にも満たなかった者が13名(38%)もいた。

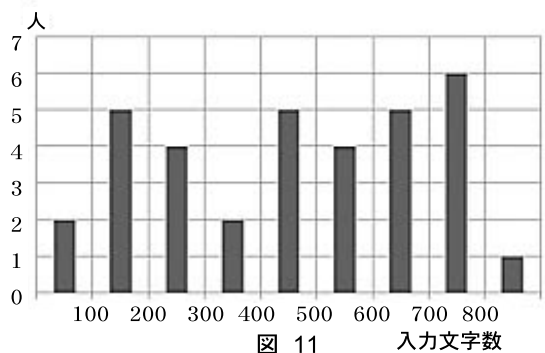


図 11



図 9

次に、文章編集能力の採点結果が図 12 および、図 13 である。

図 12 は、文章編集能力の各要素について、受験者全体に占める正答者の割合を集計した図である。正答者の率が 80% に満たない項目が 14 項目中で 8 項目もあった。特に、図表番号は正答者がいなかった。総じて、文字を見た通りに入力出来るが、Word 本来の種々の文章編集機能には未だ習熟していないという結果が出た。

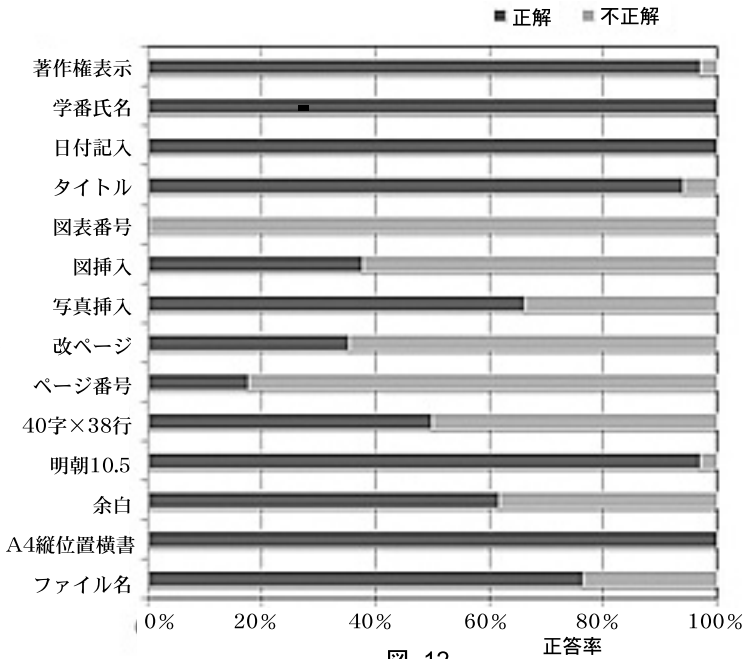


図 12

採点の配分は文章入力能力と文章編集能力で等分 (50% : 50%) にした。

その結果、文章編集能力の部分についての採点結果のヒストグラムが図 13 である。

図 12 の結果を反映して、採点結果は総じて低調になり、ヒストグラムの分布は

低得点方向に膨らみ、50 点満点中の平均点は 23.8 点となった。最高は 36 点、最低は 14 点である。

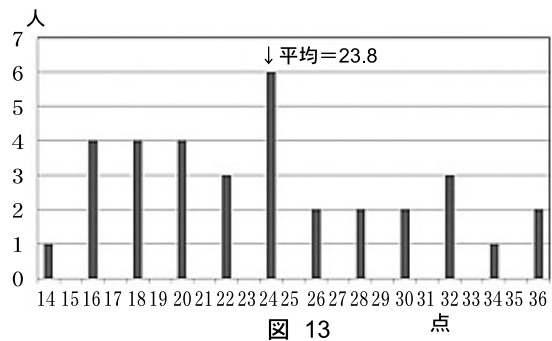


図 13

文章入力能力と文章編集能力を合計した採点結果のヒストグラムが図 14 である。

最高点は 85.5 点、最低点は 16 点、平均点は 52.4 点であった。60 点未満が 20 人 (58.8%)、60 点以上が 14 人 (41.2%) であった。

低得点の受験者は、文章入力能力と文章編集能力が未熟である、という結果である。

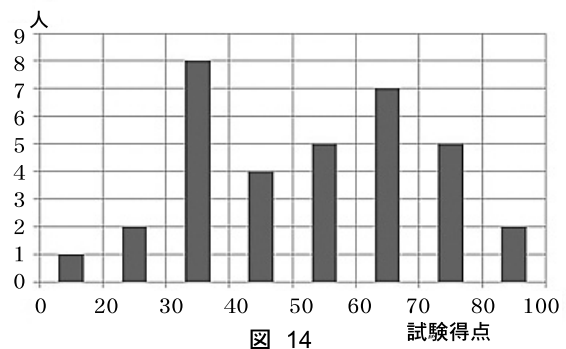


図 14

7.成績

前期の成績は、出席点が30%、課題やタッチタイピングのテスト結果等が50%、定期試験の結果が20%の比率で算出し、その上で授業態度等の平常点を加味して総合評価した。

中でも課題点の算出では、履歴書や教科書のWord編の編末にある練習問題、PowerPointの最終課題を特に重要視した。

PowerPointの最終課題では、観光地案内の企画書作成を課題のテーマとした。

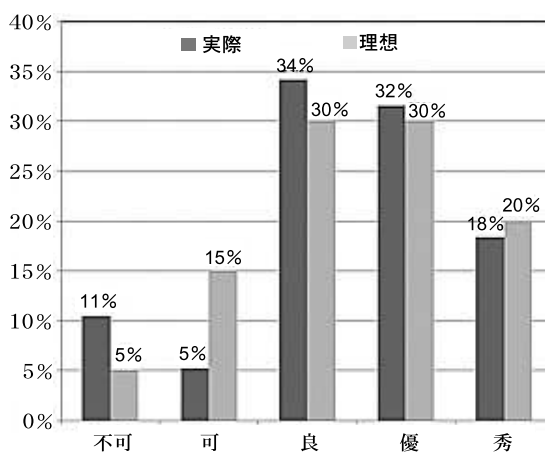


図 15

成績結果のヒストグラムが図15である。

不可になったのは全員が前期試験に欠席し、その後、追試験も受験しなかった受講生達である。

可が理想より少し少ないのは、不可と良が理想より少し多かったからである。ヒストグラムの全体で理想と実際の間で特に大きな齟齬は見られなかった。

8. アンケート調査

8.1 アンケート内容

アンケートは、図 16 のように、授業で使用している Web テキスト（授業では、Web ノートと呼んでいる）のページとして設けて実施した。

実際のアンケート内容は、図 17 である。

情報リテラシー I

00. 12.02.02

01. 学習ネットワーク

02. Google アカウント、検索

03. ソフトウェアのインストール、プログラムのインストール

04. ソフトウェアのインストール、プログラムのインストール

05. Word の基本的な文章作成

06. Word の基本的な文章作成

07. Word の文章印刷の基礎

08. Word の文章印刷の基礎

09. Word の文章印刷の基礎

10. Word の文章印刷の基礎

11. PowerPoint の基本的な操作とスライドショーの作成

12. PowerPoint の基本的な操作とスライドショーの作成

13. PowerPoint データのデザイン、リハーサル

14. PowerPoint プレゼンテーションの作成

15. 最終試験

16. 最終試験

17. データ

18. データ

19. データ

20. データ

1.4. PowerPoint のプレゼンテーションの作成 >

B. 授業アンケート

アンケート

アンケートの提出方法

1. 授業ノートからアンケート全体を Excel にコピーして貼り付ける。
2. 自分の ID のフォルダ「情報リテラシー I」にファイル名を付けて保存する
ファイル名: アンケート312xxxxx-学生番号
3. アンケートに答える
4. 上書き保存する
5. メールに添付して提出する。件名は アンケート312xxxxx-学生番号

下記の質問に答えて下さい。答えの数字を1つだけ回答欄に記入して下さい。
その他の回答は、() 内に記入して下さい。

ここから Excel にコピーして貼り付ける。

No	問 題	回答欄
例	先生は好きですか？ 1. 大好き 2. 少し好き 3. なんとも思っていない 4. 少し嫌い 5. 大嫌い	1
1	授業の進め方はどうですか？ 1. とても早い 2. 少し早い 3. ちょうど良い 4. 少し遅い 5. 全く遅い	
2	課題の量はどうでしたか？ 1. とても多かった 2. 少し多かった 3. ちょうど良かった 4. 少し少なかった 5. とても少なかった	
3	授業中、先生の声は聞こえますか？ 1. とても声が大きい 2. 少し声が大きい 3. ちょうど良い 4. 少し声が小さい 5. 全く聞こえない	
4	授業中、学生はうるさいですか？ 1. とてもうるさい 2. 少しうるさい 3. ちょうど良い 4. 少し静か 5. 静かすぎてキモイ	
5	授業の難易度はどうでしたか？ 1. とても難しかった 2. 少し難しかった 3. ちょうど良かった 4. 少し易かった 5. とても易かった	

図 16

No	問 題	回答例
例	先生は好きですか 1. 大好き 2. 少し好き 3. なんとおもっていない 4. 少し嫌い 5. 大嫌い	1
1	授業の進め方はどうですか 1. とても早い 2. 少し早い 3. ちょうど良い 4. 少し遅い 5. 全く遅い	
2	課題の量はとうでしたか 1. とても多かった 2. 少し多かった 3. ちょうど良かった 4. 少し少なかった 5. とても少なかった	
3	授業中、先生の声は聞こえますか 1. とても声が大きい 2. 少し声が大きい 3. ちょうど良い 4. 少し声が小さい 5. 全く聞こえない	
4	授業中、学生はうるさいですか 1. とてもうるさすぎる 2. 少しうるさい 3. ちょうど良い 4. 少し静か 5. 静かすぎてキモイ	
5	授業の難し度はとうでしたか 1. とても難しかった 2. 少し難しかった 3. ちょうど良かった 4. 少し易しかった 5. とても易しかった	
6	授業内容はとうでしたか 1. とても長すぎる 2. 少し長い 3. ちょうど良い 4. 少し短い 5. とても短い	
7	授業内容はとうでしたか 1. 今のままで良い 2. 例々の科目にして欲しい 3. Wordは要らない 4. Excelは要らない 5. PPは要らない	
8	PHPの大きさはとうですか 1. とても大きすぎる 2. 少し大きすぎる 3. ちょうど良い 4. 少し小さい 5. 見えない	
9	先生の操作説明が写るモニターがもう一つ別にあった方が良いですか 1. とても利用したい 2. できれば利用したい 3. どちらでも良い 4. 無くても良い 5. 先生の説明は不審	
10	机の広さはとうですか 1. とても広すぎる 2. 少し広すぎる 3. ちょうど良い 4. 少し狭い 5. とても狭い	
11	先生の授業ノート(webページ)はどうでしたか 1. とても良かった 2. 少し良かった 3. どちらでもない 4. 少し良くなかった 5. 悪い方が良い	
12	先生の授業ノート(webページ)の良かった点は何ですか 1. いつでも見れる 2. 自分のペースで読める 3. 何處でも見れる 4. 家で見れる 5. 何も無い 6. その他()	
13	先生の授業ノート(webページ)の悪かった点は何ですか 1. とても良かった 2. 少し良かった 3. どちらでもない 4. 少し良くない 5. 悪い方が良い	
14	先生の授業ノート(webページ)で改善してほしい点は何ですか 1. 何も無い 2. 悪い方が良い 3. 教科書と違ふ内容が良い 4. 文字 5. 画像 6. その他()	
15	授業の方法はどれが良いですか 1. 先生の授業ノート(webページ)だけで良い 2. 教科書だけで良い 3. OHPだけで良い 4. プリントが良い 5. 何もない	
16	MOA決定試験は受験しますか 1. 必ず受験する 2. できれば受験したい 3. 受験しない 4. 受験しても受からない 5. 興味が無い 6. 無い	
17	他に学習したソフトが有りますか 1. 何も無い 2. HTML 3. Java 4. C 5. Android 6. CAD 7. Access 8. その他()	
18	Facebook®は利用していますか 1. 毎日利用している 2. 時々利用している 3. 登録したが利用していない 4. 登録していない 5. 興味が無い 6. 無い	
19	Facebook®で友達何人いますか 1. 1000人以上 2. 100人以上 3. 10人以上 4. 1人以上 5. 1人だけ 6. 0人	
20	何がSNSを利用していますか 1. 何も無い 2. アズリ 3. Yahoo 4. Google+ 5. Mixi 6. Twitter 7. その他()	

図 17

8.2 アンケート結果

調査対象は、筆者が制作した Web テキストを利用した、総合政策学部で筆者が情報リテラシーの授業を担当しているクラスの受講生である。

従って、前述の 3～7 章で得たデータと調査対象は同じである。

同クラスの受講生は 38 名であるが、アンケート実施当日の欠席者は 6 名であったため、アンケート回答者は 32 名であった。アンケート回答者の内、女性は 13 名 (40.6%) であった。同じく、アンケート回答者の内、2 名 (6.25%) は総合政策学科の 1 年生であり、その他 30 名 (93.75%) はライフマネジメント学科の 1 年生であった。年齢分布および現役・浪人の別はデータが無い為、不明である。以上、表 3 参照。

表 3

受講生 38名	出席者32名 (84.2%)	女性13名 (40.6%)	ライフマネジメント学科 30名 (93.75%)
		男性19名 (59.4%)	
欠席者6名 (15.8%)			

8.3 アンケート結果

8.3.1 授業の進捗スピードについて (図 18 参照)

アンケート冒頭の設問 1 で、授業の進捗スピードについて聞いた。

データの数値化に関しては、

1. とても早い、
2. 少し早い、
3. ちょうど良い、
4. 少し遅い、
5. 全く遅い、

とした。

その結果、とても早いが 9%、少し早いが 38% との結果で、合わせて 47% の受講生が授業の進捗を多少なりとも早く感じている。

一方、ちょうど良いは 25% に留まり、少し遅いが 25% で、全く遅いの 3% と合わせて 28% の受講生は多少とも遅く感じている。

なお、これら全体の平均は 2.75 になり、受講生全体を平均すると、授業の進捗スピードは、ちょ

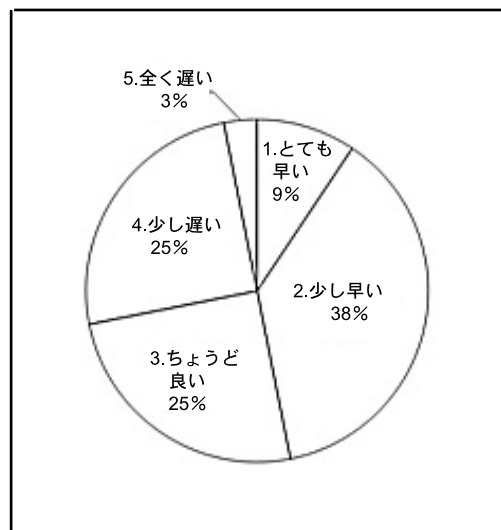


図 18

うど良いからやや早いと感じている、という結果となった。

8.3.2. 授業での課題の量について (図19参照)

設問2では、授業で出題される課題の量について聞いた。

データの数値化に関しては、

1. とても多かった、
2. 少し多かった、
3. ちょうど良かった、
4. 少し少なかった、
5. とても少なかった

とした。

課題は授業毎に1題以上出しているが、少し多かったと答えた50%を中心に、とても多かったと答えた19%と合わせて69%の受講生が課題の量を多く感じている。

ちょうど良かったと答えた受講生は28%で、少し少なかったと答えた受講生は僅か3%に過ぎず、とても少なかったと答えた受講生は0%であった。

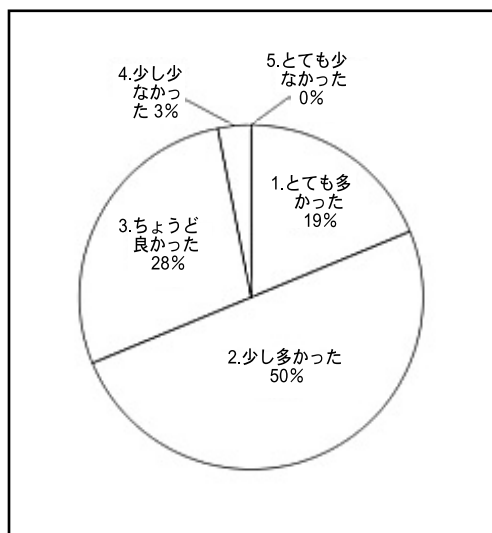


図 19

なお、これら全体の平均は2.16になり、受講生全体を平均すると、課題の量は、ちょうど良いというより少し多かったと感じている、という結果となった。

8.3.3. 授業での教師の音量について (図20参照)

設問3では、授業中の教師の音量について聞いた。

データの数値化に関しては、

1. とても声が大きい、
2. 少し声が大きい、
3. ちょうど良かった、
4. 少し声が小さい、
5. 全く聞こえない

とした。

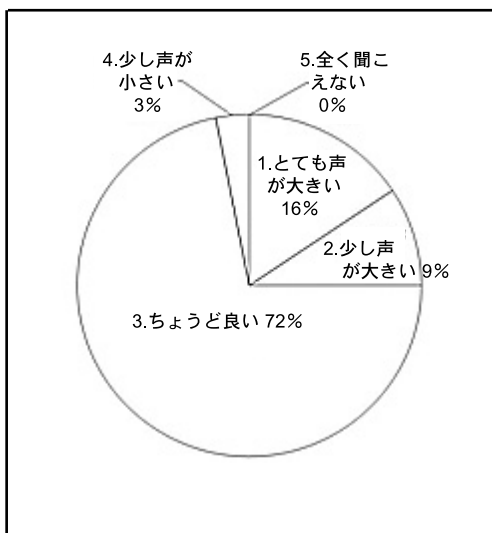


図 20

調査結果では、ちょうど良いが72%で他を圧倒しており、続いて、とても声が大きい16%、少し声が大きい9%、少し声が小さい3%であったが、全く声が聞こえないは0%であった。

なお、これら全体の平均は2.63になり、受講生全体を平均すると、教師の音量は、ちょうど良いというより僅かに声が大きいと感じている、という結果となった。

一方、座席位置との相関を取ったのが図 21 であるが、特に、座席位置との相関関係は見られなかった。

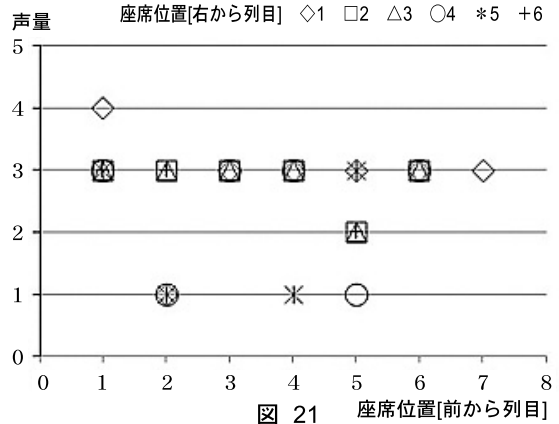


図 21 座席位置[前から列目]

8.3.4. 授業中の受講生の喧騒について (図 22 参照)

設問 4 では、授業中の受講生の喧騒について聞いた。

データの数値化に関しては、

1. とてもうるさすぎる、
2. 少しうるさい、
3. ちょうど良い、
4. 少し静か、
5. 静かすぎてキモイ (気持ち悪い)

とした。

ちょうど良いの 56% を中心に、少しうるさい 19% と、少し静か 19% が拮抗しており、静かすぎてキモイ (気持ち悪い) と答えた受講生も 6% いた。

なお、これら全体の平均は 3.13 になり、受講生全体を平均すると、授業中の受講生の喧騒は、ちょうど良いかほんの少し静かと感じている、という結果となった。

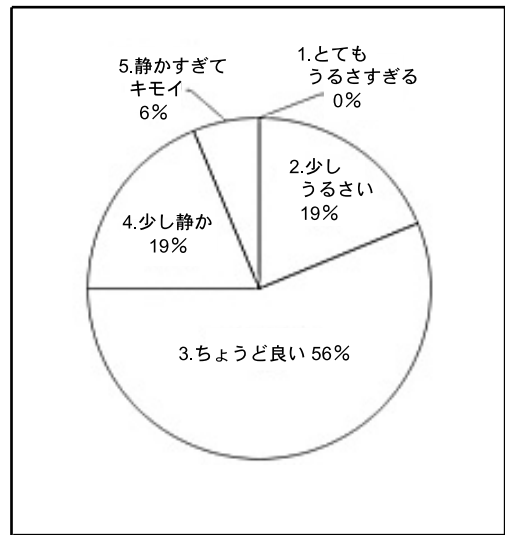


図 22

8.3.5. 授業内容の難易度について (図 23 参照)

設問 5 では、授業内容の難易度について聞いた。

データの数値化に関しては、

1. とても難しかった、
2. 少し難しかった、

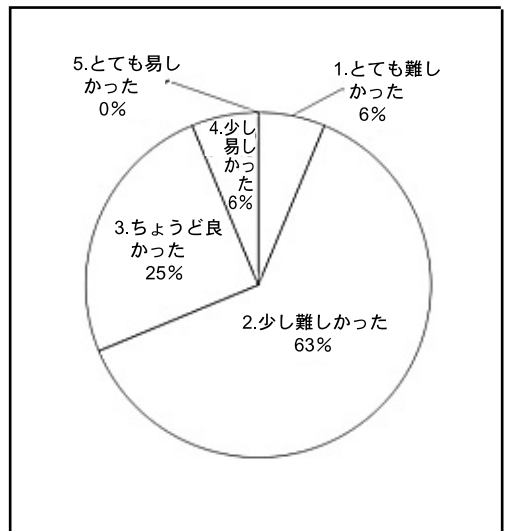


図 23

- 3. ちょうど良かった、4. 少し易しかった、
- 5. とても易しかった

とした。

調査結果では、少し難しかった63%を中心に、ちょうど良かったが25%で、とても難しかったと少し易しかったが共に6%であった。とても易しかったは0%であった。

なお、これら全体の平均は2.31になり、受講生全体を平均すると、授業内容の難易度は、ちょうど良いというよりやや少し難しいと感じている、という結果となった。

また、授業の難易度と授業の進捗スピードおよび課題量との間には共に、弱い相関が見られた。つまり、授業が難しいと感じている受講生は授業の進捗スピードも早いと感じ、また、課題量も多いと感じている(図24および図25参照)。

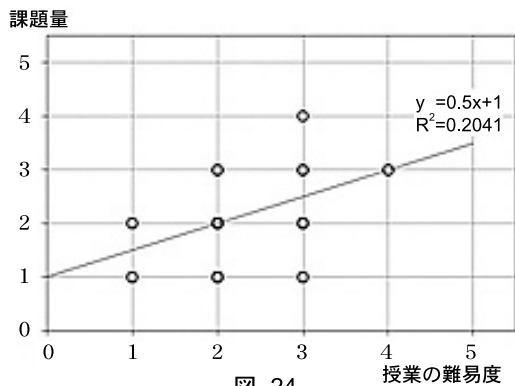


図 24

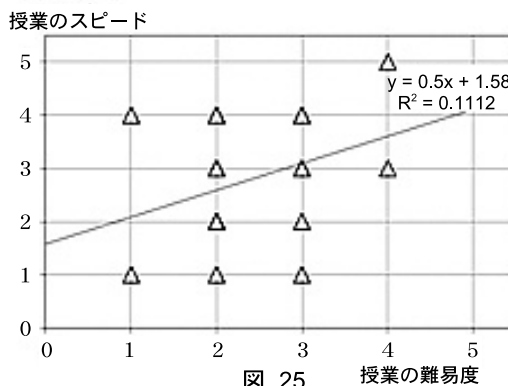


図 25

しかし、授業のスピードと課題量の間には、有意な相関は見られない(図26参照)。従って、授業がやや少し難しい事が、課題量が多いと感じたり、授業スピードが早いと感じる直接の原因である。

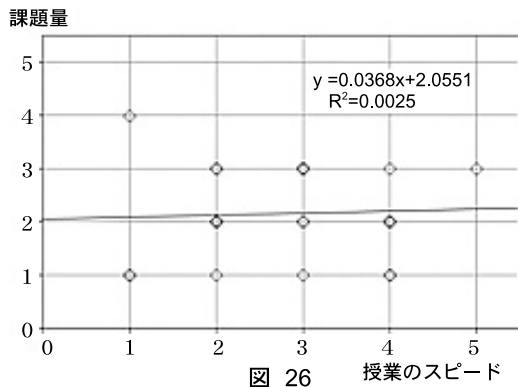


図 26

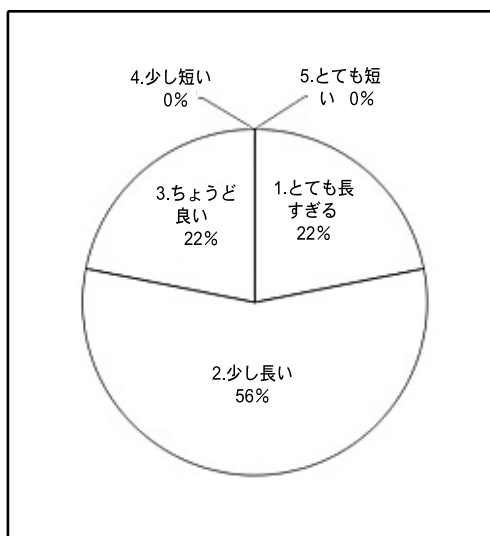


図 27

8.3.6. 授業時間の長さについて(図27参照)

設問6では、授業時間の長さについて聞いた。

データの数値化に関しては、

- 1. とても長すぎる、

2. 少し長い、3. ちょうど良い、4. 少し短い、5. とても短い
とした。

調査結果では、少し長い56%を中心に、とても長すぎる22%とちょうど良い22%が拮抗しており、少し短いととても短いと答えた受講生は共に0%であった。

これら全体の平均は2.00となり、受講生全体を平均すると、授業時間の長さは少し長いと感じている、という結果になった。

なお、授業の難易度と授業時間の長さについて、若干ではあるが緩い相関が見られた(図28参照)が、授業の進捗スピードと授業時間の長さについては、有意な相関は見られなかった(図29参照)。

事業時間の長さ

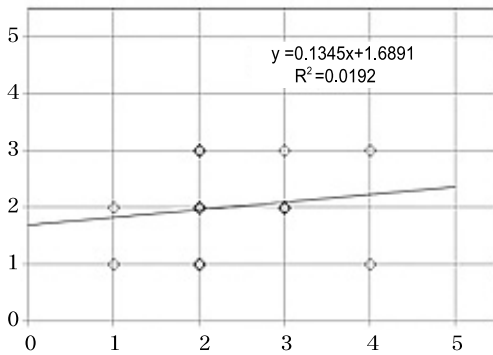


図 28 授業の難易度

事業時間の長さ

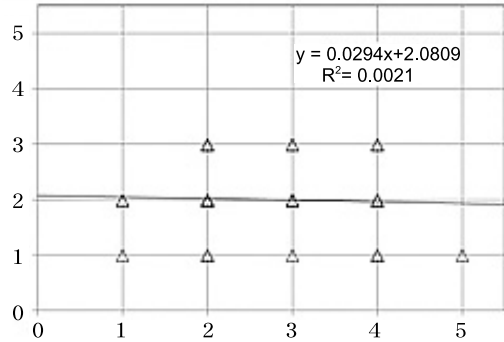


図 29 授業のスピード

一方、課題量と授業時間の長さについては、若干ではあるが緩い相関が見られた(図30参照)。従って、授業がやや少し難しい事や課題が少し多い事が、授業時間が少し長いと感じる原因である。

授業時間の長さ

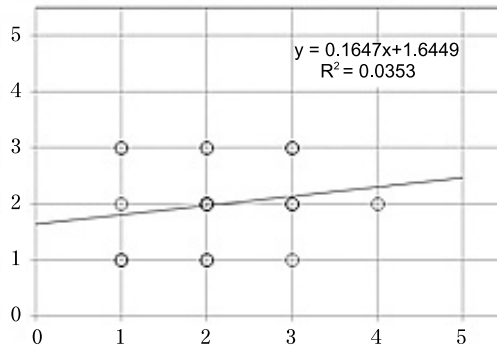


図 30 課題量

8.3.7. 授業の科目内容について (図31 参照)

設問7では、授業の科目内容 (Word、PowerPoint、Excel) について聞いた。

データの数値化に関しては、

1. 今のままで良い、
2. 別々の科目にして欲しい、
3. Wordは要らない、
4. Excelは要らない、
5. PowerPointは要らない

とした。

調査結果では、今のままで良いが78%と他を圧倒した。Word、PowerPoint、Excelの3科目を別々の科目にして欲しいは僅か16%であった。一方、Wordは要らない、PowerPointは要らないは共に3%で、Excelは要らないは0%であった。

これら全体の平均は1.34となり、受講生全体を平均すると、ほぼ今のままで良いと考えている、という結果になった。

なお、授業の科目内容 (Word、PowerPoint、Excel) について、授業の進捗スピード、および、課題量、難易度、授業時間の長さ、等との相関 (図32) を取ってみたところ、図32中の横軸の1に対応する「今のままで良い」や2の「別々の科目にして欲しい」とした受講生はそれぞれ広く分布したのに対し、3の「Wordは要らない」とした受講生は課題量だけ分布から外れて「とても多い (縦軸の1に対応)」としている。

8.3.8. プロジェクターについて (図33 参照)

設問8では、授業で使用しているプロジェクターについて聞いた。

データの数値化に関しては、

1. とても大き過ぎる、
2. 少し大き過ぎる、
3. ちょうど良い、

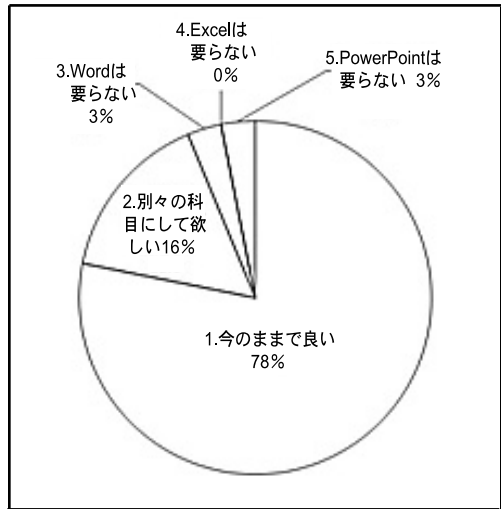


図 31

◇授業のスピード ●課題量 △難易度 □事業時間の長さ

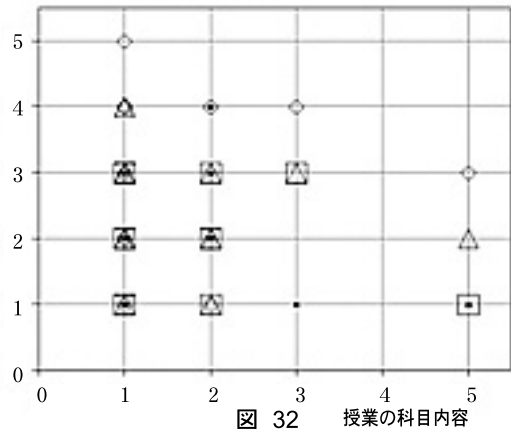


図 32 授業の科目内容

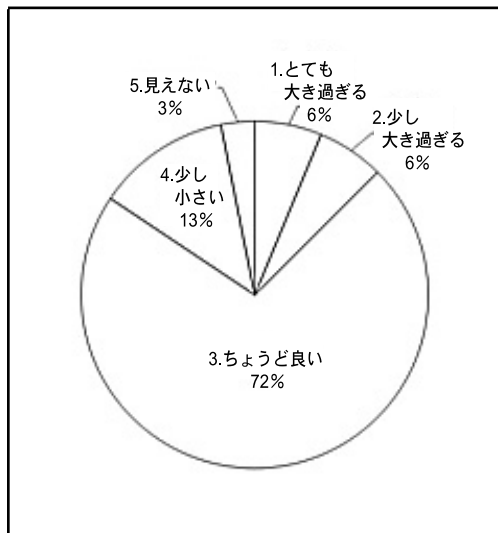


図 33

4. 少し小さい、5. 見えない

とした。

調査結果では、ちょうど良いが72%で他を圧倒した。続いて、少し小さい13%、少し大き過ぎるととても大き過ぎるが共に6%、見えないは僅か3%であった。

これら全体の平均は3.00となり、受講生全体を平均すると、ちょうど良いと感じている、という結果になった。

なお、座席位置との相関を見たところ、スクリーンから最も遠い座席で少し小さいと感じている、という結果がでた(図34)。

スクリーン

		左から					
		1	2	3	4	5	6
前から	1	3	3	2	3		
	2	3	3	3	3	3	3
	3	3	3	3	3	3	2
	4	3	3	3	3		
	5	4	3	1	4	1	
	6	4	3	3	3	3	5
	7	4					

図 34

8.3.9. 別モニターの必要性について(図35参照)

設問9では、教師の操作説明が写るモニターがもう一つ別にあった方が良いかどうかについて聞いた。

データの数値化に関しては、

1. とても利用したい、
2. できれば利用したい、
3. どちらでも良い、4. 無くても良い、
5. 教師の説明は不要

とした。

調査結果では、どちらでも良いが56%で、ついで、できれば利用したい19%、無くても良い16%、とても利用したい9%であったが、教師の説明は不要との回答は0%であった。

これら全体の平均は2.78となり、受講生全体を平均すると、どちらでも良いができれば利用したいと考えている、という結果になった。

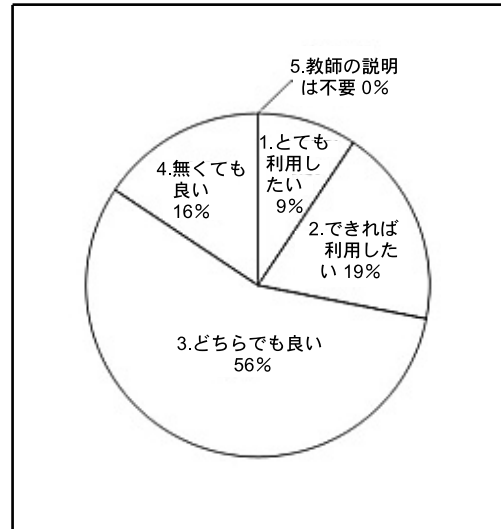


図 35

なお、座席位置との相関を見たところ、スクリーンから最も遠い座席で「1. とても利用したい」かもしくは「2. できれば利用したい」と感じているという結果がでた(図36)。

スクリーン

		左から					
		1	2	3	4	5	6
前から	1	3	4	2	3		
	2	1	3	3	3	2	4
	3	1	3	4	3	3	2
	4	2	3	3	3		
	5	1	3	3	2	4	
	6	2	4	3	3	3	3
	7	3					

図 36

8.3.10 . 机の広さについて (図37参照)

設問10では、教室の机の広さについて聞いた。

データの数値化に関しては、

1. とても広すぎる、
2. 少し広すぎる、
3. ちょうど良い、
4. 少し狭い、
5. とても狭い

とした。

調査結果では、ちょうど良いが75%で他を圧倒した。少し狭いは13%、少し広すぎるととても広すぎるが共に6%であったが、とても狭いは0%であった。

これら全体の平均は2.94となり、受講生全体を平均すると、ちょうど良いと感じている、という結果になった。

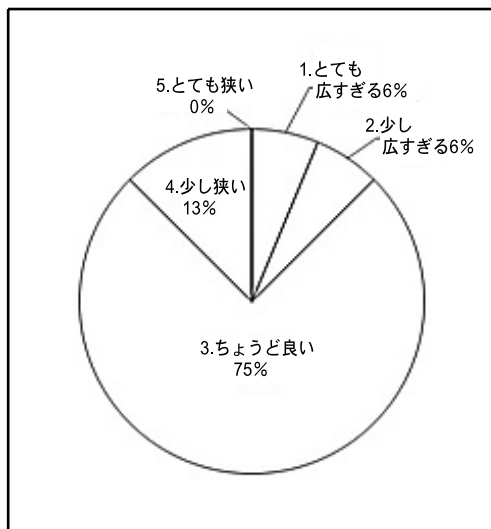


図 37

8.3.11 . Webテキストについて (図38参照)

設問11では、授業で使用しているWebテキスト(授業では、Webノートと呼んでいる)について聞いた。

データの数値化に関しては、

1. とても良かった、
2. 少し良かった、
3. どちらでもない、
4. 少し良くなかった、
5. 無い方が良い

とした。

調査結果では、少し良かった38%と、とても良かった28%を合わせて66%が肯定的な感想であった。一方、どちらでもないが31%であったが、少し良くなかったは3%で、無い方が良いは0%であり、否定的な感想は合わせても3%しかなかった。

これら全体の平均は2.09となり、受講生全体を平均すると、少し良かったと感じている、という結果になった。

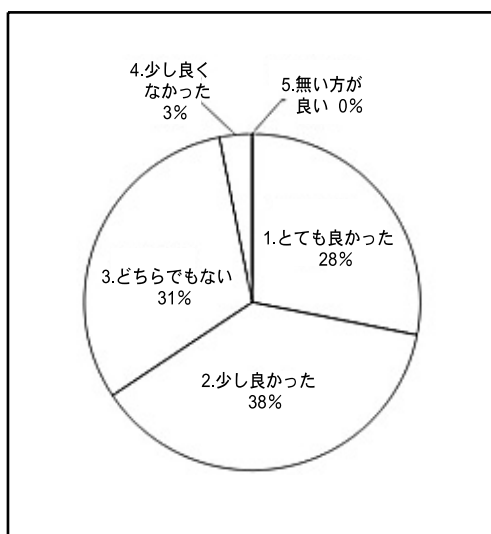


図 38

8.3.12 . Web テキストの良かった点について (図 39 参照)

設問 12 では、授業で使用している Web テキストの良かった点について聞いた。

データの数値化に関しては、

- 1 . いつでも見れる、
- 2 . 自分のペースで進める、
- 3 . 何度でも見れる、
- 4 . 家でも見れる、
- 5 . 何も無い、 6 . その他

とした。

調査結果では、いつでも見れると家でも見れるが共に 25 % で、ついで、自分のペースで進めると何度でも見れるが共に 22 % であった。一方、何も無いは僅か 6 % で、その他は 0 % であった。

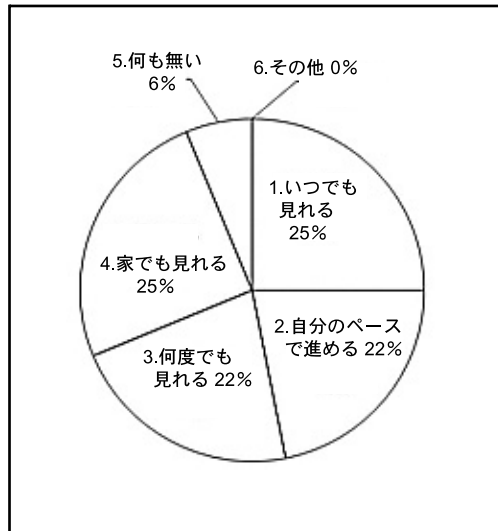


図 39

8.3.13 . Web テキストの画像について (図 40 参照)

設問 13 では、Web テキストで用いた画像について聞いた。

データの数値化に関しては、

- 1 . とても良かった、 2 . 少し良かった、 3 . どちらでもない、 4 . 少し良くない、
- 5 . 無い方が良い

とした。

調査結果では、とても良かった 10 % と、少し良かった 35 % を合わせて 45 % が肯定的な感想であった。一方、どちらでもないが 52 % であったが、少し良くなかったは 3 % で、無い方が良いは 0 % であり、否定的な感想は合わせても 3 % しかなかった。

これら全体の平均は 2.48 となり、受講生全体を平均すると、少しは良かったと感じている、という結果になった。

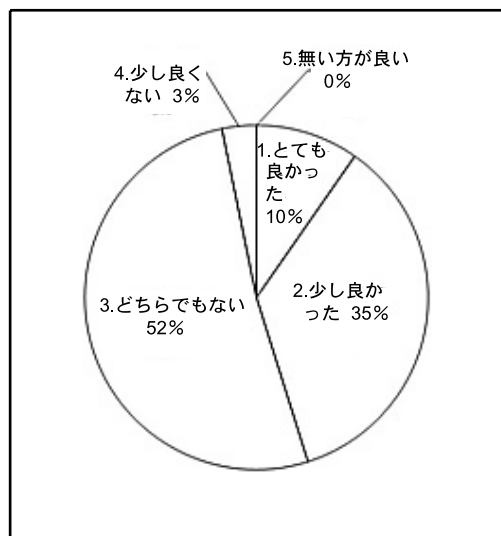


図 40

8.3.14 . Webテキストの改善点について (図41 参照)

設問14では、Webテキストで改善すべき点について聞いた。

データの数値化に関しては、

1. 何も無い、
2. 無い方が良い、
3. 教科書と違う内容が良い、
4. 文字、
5. 画像、6. その他

とした。

調査結果では、何も無いが70%で他を圧倒した。ついで、文字が13%、画像が7%であったが、教科書と違う内容が良いは僅か7%で、無い方が良いも3%しかなく、その他は0%であった。

現在、授業で使用しているWebテキストの内容は、教科書の説明を補充・補足する為の内容に留めており、そのため、授業では、「Webノート」と呼んでいるが、当アンケートでは、この趣旨がそのまま肯定的に認められたと見なせる結果となった。

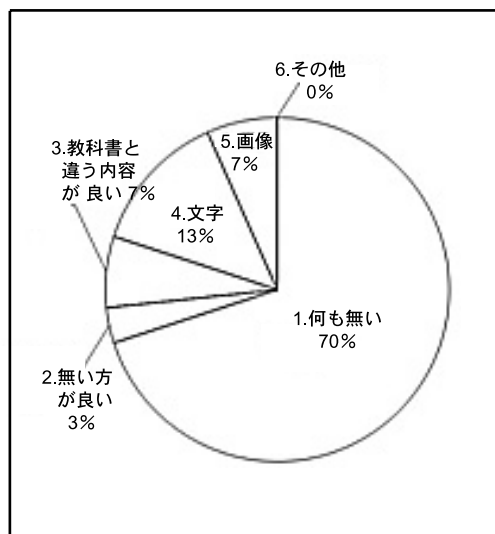


図 41

8.3.15 . 授業の方法について (図42 参照)

設問15では、授業の方法について、何が良いか聞いた。

設問内容とデータの数値化に関しては、

1. Webテキストだけで良い、
2. 教科書だけで良い、
3. OHPだけで良い、
4. プリントだけでよい、
5. 何もいない

とした。

調査結果では、Webテキストだけで良いが61%で他を圧倒した。ついで、教科書だけで良いが19%、プリントだけで良いが7%、OHPだけで良いが3%であったが、何もいないは10%であった。

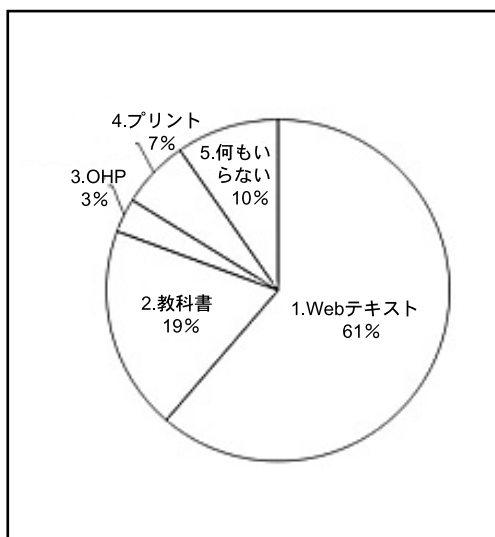


図 42

8.3.16 . MOS 検定について (図 43 参照)

設問 16 では、MOS 検定について聞いた。
設問内容とデータの数値化に関しては、

- 1 . 必ず受験する、
- 2 . できれば受験する、
- 3 . 受験しない、
- 4 . 受験しても受からない、
- 5 . 興味が無い、 6 . 嫌い

とした。

調査結果では、必ず受験する 3% とできれば受験する 36% を合わせると、39% が受験に対して肯定的であった。

一方、受験しない 16% と受からない 23%、興味が無い 16%、嫌い 6% を合わせた 61% が否定的であった。

これら全体の平均は 3.32 となり、受講生全体を平均すると、受験しても受からないから受験しない、という結果になった。

次に、MOS 検定に対する受講生の意識と授業の難易度、進捗スピード、課題量について、相関関係を取ってみた。

まず、MOS 検定に対する受講生の意識と授業の難易度については、明らかな相関関係が見られた。

つまり、授業の内容が難しいと感じている受講生程、MOS 検定に対しては否定的である (図 44)。

同じく、授業の進捗スピードとの間にも相関関係が見られた (図 45)。また、課題量との間にも相関関係が見られた (図 46)。

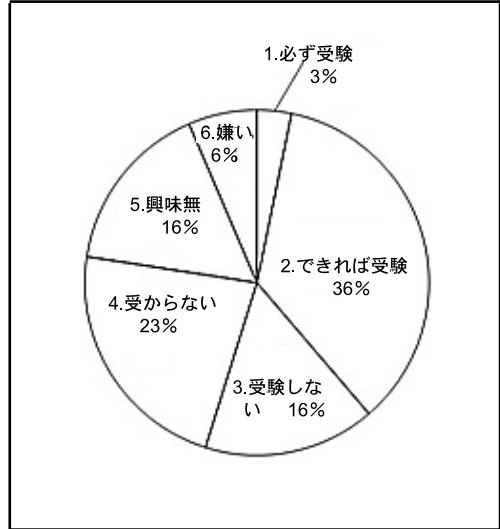


図 43

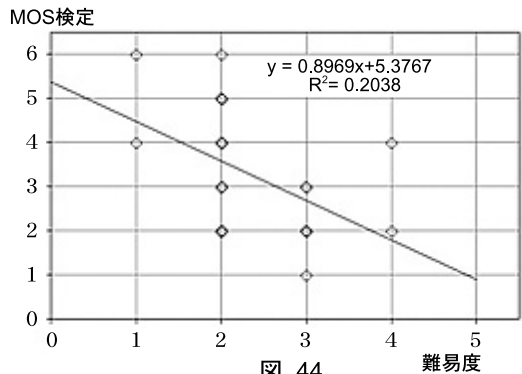


図 44

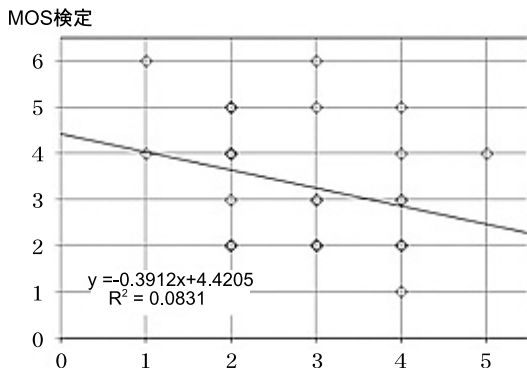


図 45

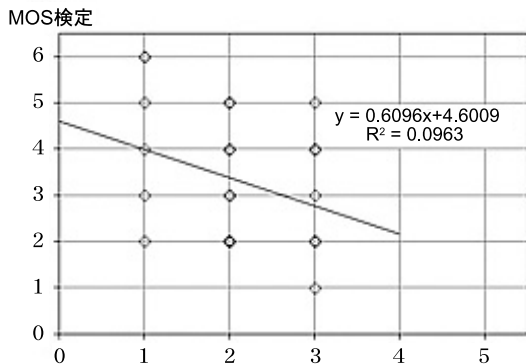


図 46

8.3.17 . 他に学習したいソフトについて (図47参照)

設問17では、他に学習したいソフトについて聞いた。

設問内容とデータの数値化に関しては、

- 1 . 何も無い、
- 2 . HTML、 3 . Java、
- 4 . C言語、 5 . Android、
- 6 . CAD、 7 . Access、
- 8 . その他

とした。

調査結果では、何も無いが73%で他を圧倒した。ついで、Java言語が10%、HTMLとAndroidが共に7%であったが、MOS検定の1科目であるAccessは0%であった。また、従来、IT系の就職に強い資格であったC言語やCADは共に0%であった。

なお、その他3%として1人が、「何が何だか解らない」と答え、受講生全体のIT系ソフトに対する認識を代弁している。

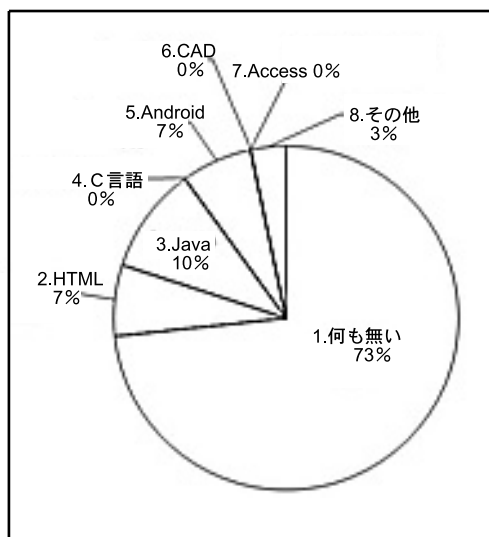


図 47

8.3.18 . Facebookの利用について (図48参照)

設問18では、課題4で登録と利用について実際に実習を行ったFacebookのその後の利用について聞いた。

設問内容とデータの数値化に関しては、

- 1 . 毎日利用、 2 . 時々利用、
- 3 . 登録のみ、 4 . 不登録、
- 5 . 興味無し、 6 . 嫌い、

とした。

調査結果では、登録のみが38%で最も多く、次いで、時々利用が34%、毎日利用が10%、興味無し9%、嫌い6%、不登録3%であった。

毎日利用したり時々利用したりする受講生がいる一方で、全体の平均は2.88となり、受講生全体を平均すると、登録のみでほとんど利用しない、という結果になった。

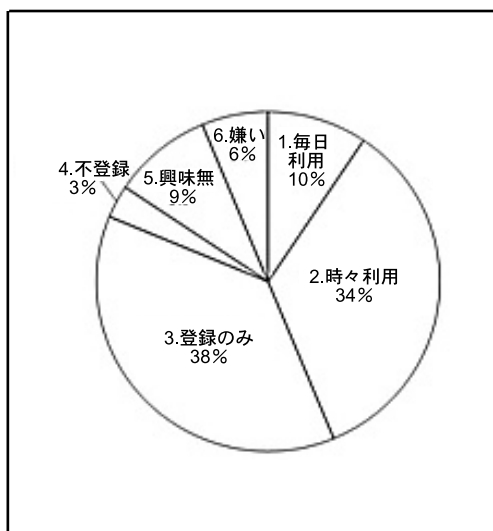


図 48

8.3.19 . Facebook の友達数について (図 49 参照)

設問 19 では、Facebook の友達数について聞いた。
設問内容とデータの数値化に関しては、

- 1 . 1000 人以上、2 . 100 人以上、
- 3 . 10 人以上、4 . 1 人以上、
- 5 . 1 人だけ、6 . 0 人

とした。ちなみに、「1 人だけ」の 1 人とは実習で友達リクエストし承認された筆者の事であり、「0 人」の場合は登録はしたが友達リクエストをしていないか、もしくは、登録もしていない事を意味する。

調査結果では、100 人以上は 0% で、10 人以上が 55% で最も多く、次いで、1 人以上が 29% であった。1 人だけは 6% であったが、0 人は 10% であった。

全体の平均は 3.71 となり、受講生全体を平均すると、Facebook 上の友達はほんの数人程度、という結果になった。

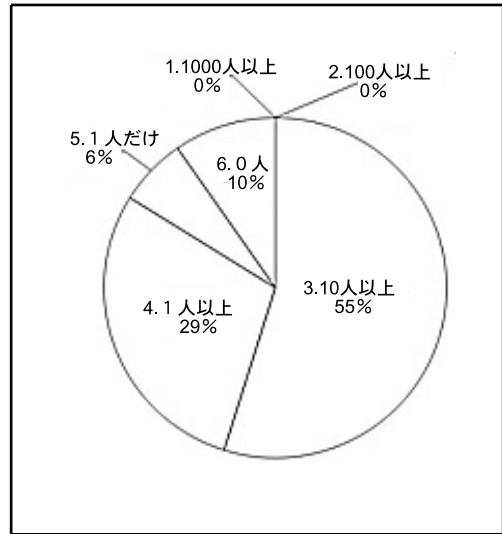


図 49

8.3.20 . 利用している SNS について (図 50 参照)

設問 20 では、受講生が利用している SNS について聞いた。
設問内容とデータの数値化に関しては、

- 1 . 何も無い、2 . アメバ、3 . Yahoo、4 . Blogger、5 . Mixi、6 . Twitter、
- 7 . その他

とした。

調査結果では、Twitter が 34% で最も多く、次いで、Mixi 32%、Yahoo 10%、アメバ 8%、Blogger 3%、その他 0% であったが、何も無いも 13% いた。

現状では、アメバ・Yahoo・Blogger のブログ系よりも Twitter や Mixi の所謂、つぶやき系の利用者が多いという結果になった。

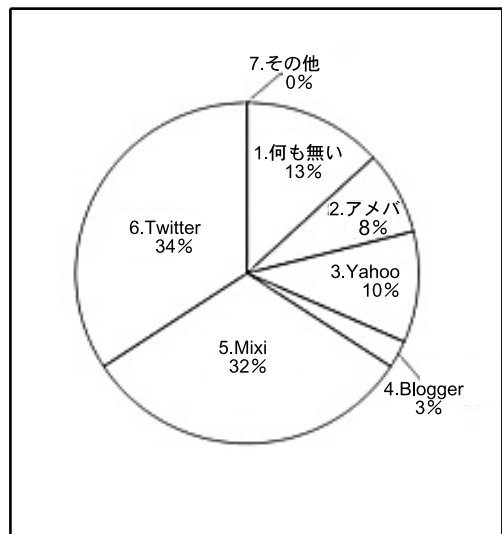


図 50

9. 考察

9.1 文章編集能力の影響について

文字の入力能力について、先に実施したタイピングテストの結果（図7）と前期の定期試験（図11）との間で相関を取ったのが図51である。

この図では明らかな相関が見られ、全体的傾向として、日本語文章の入力能力はローマ字のタイピング能力に比べておおよそ半分以下になっている。その原因の一つには、かな漢字変換が考えられるが、また、同分布中にはローマ字タイピングに比べて著しく日本語文章の入力能力が劣る受講生がいる。

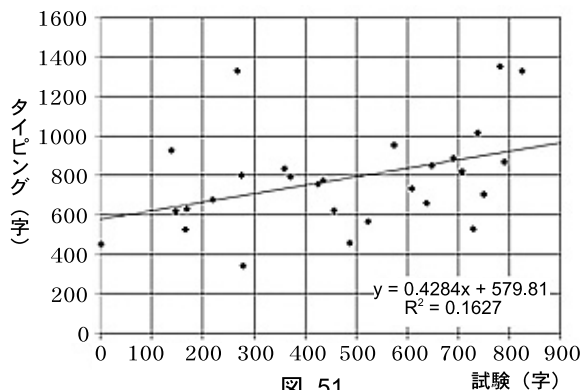


図 51

一方、文章入力能力と文章編集能力の相関関係を取った図52でも、明らかな相関関係が見られ、文章編集能力に難が有ると、それが原因となって文章入力に大きく影響する事が明らかとなった。

以上をまとめると、試験（実技）の結果が悪い受験者は、文章入力能力と文章編集能力があまり向上していない、という事である。特に、文章編集能力に難が有る学生は、それが原因となって文章入力にも影響を及ぼし、結果として、試験結果が悪くなる事が判明した。

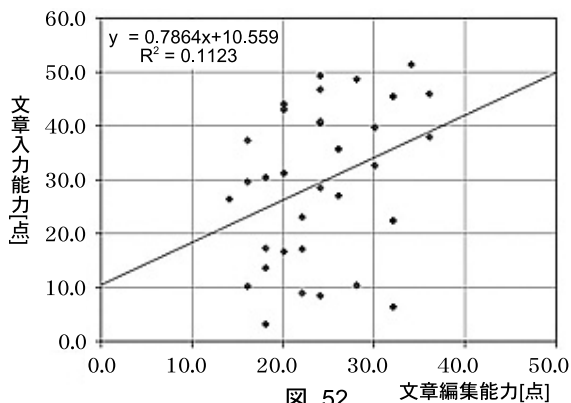


図 52

9.2 授業内容の難易度の影響について

次に、受講生が感じている授業内容の難易度と出席率、および、課題点と成績についての相関関係を分析した。

受講生が感じている授業の難易度についてのデータの数値化に関しては、8.3.5節と同じく、

1. とても難しかった、
2. 少し難しかった、
3. ちょうど良かった、
4. 少し易しかった、
5. とても易しかった

である。

その結果、受講生が感じている授業内容の難易度と出席率の間には、特に明確な相関は得られ

なかった (図 53)。従って、受講生が感じている授業の難易度が彼等の欠席の直接の原因では無く、出席率には直接影響していない事が判った。

続いて、受講生が感じている授業内容の難易度と課題点の間にも、特に明確な相関は得られなかった (図 54)。従って、受講生が感じている授業の難易度が課題点には直接影響していない事が判った。

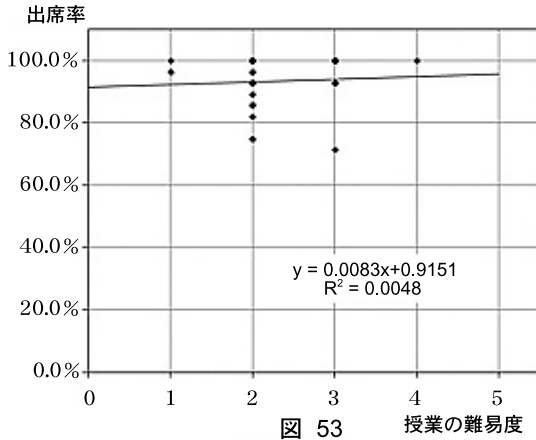


図 53 授業の難易度

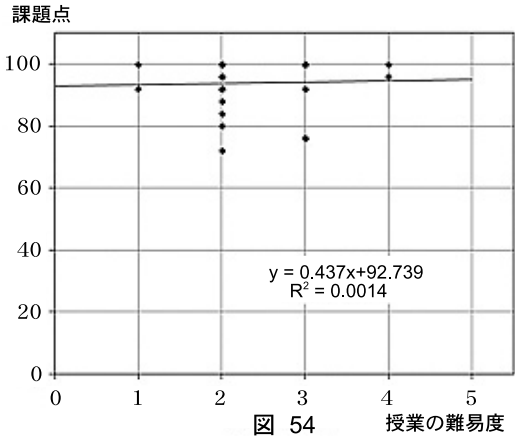


図 54 授業の難易度

一方、受講生が感じている授業内容の難易度と成績[点] 彼等の成績の間には、僅かながら相関関係が見られた (図 55)。

そこで、成績と試験の間で相関関係を取ってみたいところ、図 56 のように明らかな相関関係が出た。以上の事から、前期の成績で全体的な傾向として優劣を分けているのは、出席率や課題点では無く、文章編集能力の優劣である事が判明した。

また、受講生が感じている授業内容の難易度と文章編集能力の相関を取ったところ、有意な相関関係が見られた (図 57)。

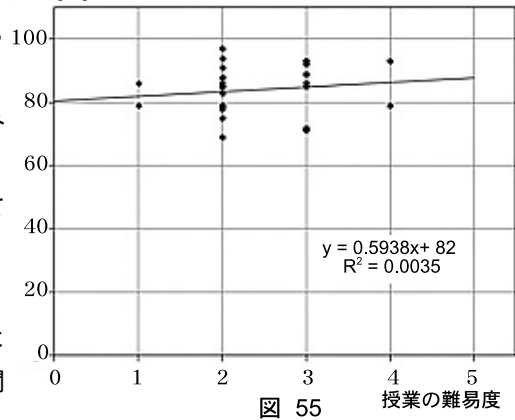


図 55 授業の難易度

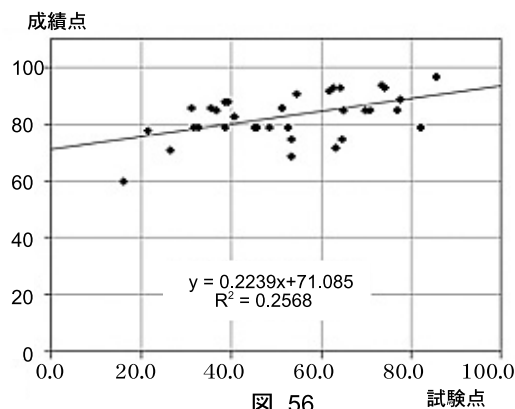


図 56 試験点

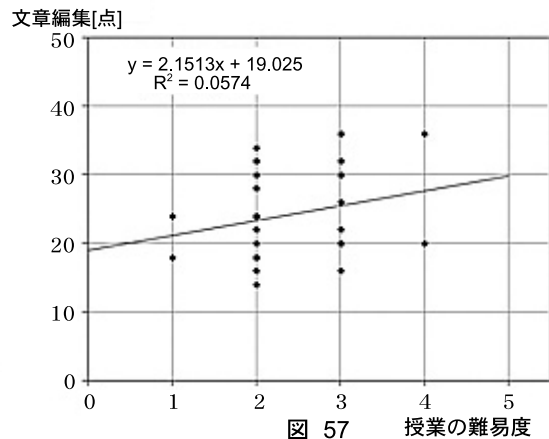


図 57 授業の難易度

従って、受講生が感じている授業内容の難易度とは詰まり文章編集の事であり、また、その能力の優劣が直接、成績に影響している事が判った。

9.3 Webテキストの影響について

次に、受講生が感じている授業内容の難易度とWebテキストとの相関を取ってみた(図58)

Webテキストへの感想のデータの数値化に関しては、8.3.11節と同じく、

1. とても良かった、
2. 少し良かった、
3. どちらでもない、
4. 少し良くなかった、
5. 無い方が良

い
とした。

その結果、若干ではあるが両者の間に相関関係が出た。即ち、授業の内容が難しいと感じている受講生は同時にWebテキストがとても良いと感じているのである。

同じく、受講生が感じている課題量の多さとWebテキストとの相関を取ってみたところ、両者の間には負の相関関係が出た(図59)

即ち、課題量が多いと感じている受講生は同時にWebテキストがそれ程良いとは感じていないのである。

また同時に、受講生が感じている課題量の多さと課題点との相関を取ってみたところ、両者の間には若干ではあるが相関関係が出た(図60)

即ち、課題量が多いと感じている受講生は、全体的傾向として課題点が悪くなる事が判った。

詰まり、この部分にWebテキストの改善点が見られる。特に、前述のbig課題の未提出率と考え合わせると、今後、Webテキストでは、文章の編集機能の補足説明をより充実させると共に、Blogger、履歴書、教科書のWord編の編末にあるWord練習問題、Powerpoint最終課題等のBig課題の補足説明をより詳しく丁寧にすれば、未提出率が改善され、課題点も向上する事が判明した。

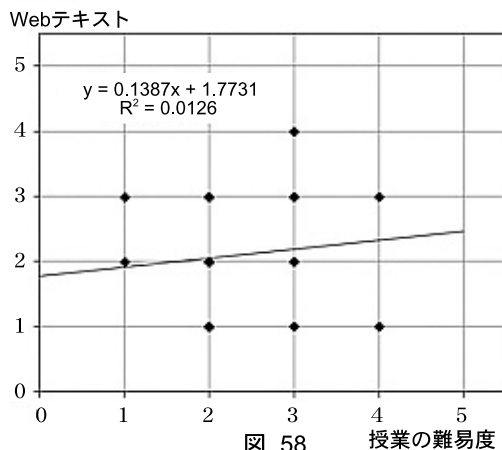


図 58 授業の難易度

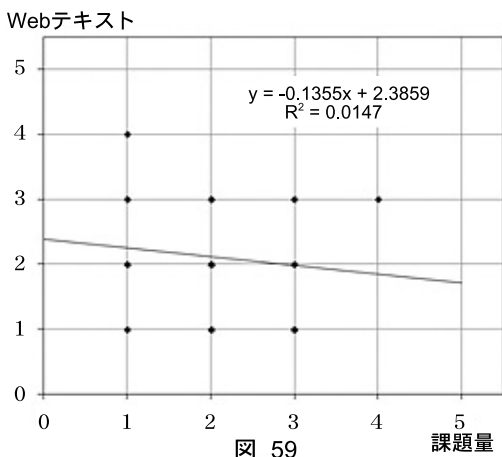


図 59 課題量

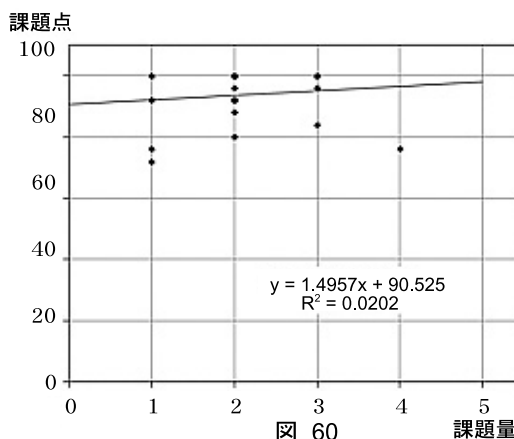


図 60 課題量

9.4 不可になった受講生のプロフィール

成績が不可になった者は4名（10.5％）である。全員が共に前期試験は受験せず、また、追試験も受験していない。詰まり、履修登録はしたが最終的には自分の意思で単位取得を放棄した者達である。全員が共に出席率が悪いが、特に中でも3名は受講生の出席率分布において最底辺に位置しており、特に授業期間の後半は全欠である。従って、課題の提出もほとんど出来ていないので、課題点も60点にすら達しておらず、全員が共に受講生の課題点分布において最底辺に位置している。

なお、全員が共に欠席が多い為、アンケート回答が無く、その為、何故、自分の意思で単位取得を放棄したかは不明である。

表 4

受講生	出席率(%)	課題点	アンケート	Facebook	Blogger	特筆事項
A	32.1	16	欠席	有	無	5月下旬以降全欠
B	53.6	40	欠席	有	無	6月以降全欠
C	28.6	4	欠席	有	無	5月以降全欠
D	67.9	40	欠席	有	無	まだら欠席

結 論

1. 授業が進むに従って欠席者がやや僅かながら増加する傾向であったが、最終的には回復し、受講生全体の最終的な出席率は概ね良好で、全授業回数の平均出席率は、87％であった。
2. 課題も概ね良好で、全課題を通しての未提出率の平均は16.2％であった。全体的傾向として、授業が進むに従って課題の未提出率が上昇し、Blogger、履歴書、教科書のWord編の編末にあるWord練習問題、Powerpoint最終課題等のBig課題で特に未提出率が跳ね上がった。
3. タッチタイピングの方法をWebテキストを用いて説明し、授業の最初に30分間、3週の授業にわたってタッチタイピングの練習を行ったが、練習の目標にした10分間で750文字以上の入力できたのは16名で採点有効者30名中の53.3％で、最高は1356文字、最低は345文字、平均は778.4文字であった。
4. 定期試験は実技試験とし、その内容は、Webテキストに添付された資料を読んで、同じくWebテキストに貼付されたデータを用いて、要約レポートをWordで作成するというものにした。その結果、前期の定期試験は、全受講生38名中、4名が欠席し、受験者は34名であった。総じて、文字を見た通りに入力は出来るが、Word本来の種々の文章編集機能には未だ習熟していないという結果が出た。最高点は85.5点、最低点は16点、平均点は52.4点であった。60点未満が20人（58.8％）、60点以上が14人（41.2％）であった。以上をまとめると、低得点の受験者は、文章入力能力と文章編集能力が未だ未熟である、という結果である。特に、文章編集能力に難が有る学生は、それが原因となって文章入力にも影響

- を及ぼし、結果として、試験結果が悪くなる事が判明した。
5. 前期の成績は、出席点が30%、課題やタッチタイピングのテスト結果等が50%、定期試験の結果が20%の比率で算出し、その上で授業態度等の平常点を加味して総合評価した。中でも課題点の算出では、履歴書や教科書のWord編の編末にある練習問題、PowerPointの最終課題を特に重要視した。PowerPointの最終課題では、観光地案内の企画書作成を課題のテーマとした。その結果、秀18%、優32%、良34%、可5%、不可11%となった(図15)。不可になったのは4名である。可が理想より少し少ないのは不可と良が理想より少し多かったからで、全体として理想と実際に特に大きな齟齬は見られなかった。
 6. 成績が不可になった者(4名10.5%)は、全員が共に出席率が最悪に属する者達で、課題の提出もほとんど出来ておらず、全員が共に前期試験は受験せず、また、追試験も受験していない。詰まり、履修登録はしたが最終的には自分の意思で単位取得を放棄した者達である。なお、全員が共に欠席が多い為、アンケート回答も無い。
 7. 受講生の多くは授業がやや少し難しいと感じており、また、その事が原因で、課題量が多いと感じたり、授業スピードがやや早いと感じたり、授業時間が少し長いと感じている事が判った。
 8. 授業の科目内容(Word、PowerPoint、Excel)について、授業の進捗スピード、および、課題量、難易度、授業時間の長さ等との相関を取ってみたところ、「Wordは要らない」とした受講生は課題量だけ分布から外れて「とても多い(縦軸の1に対応)」としている事が判った。
 9. MOS検定に対する受講生の意識と授業の難易度や進捗スピード、課題量等については、明らかな相関関係が見られ、授業の内容が難しいと感じたり、進捗スピードが早いと感じたり、課題量が多いと感じている受講生程、MOS検定に対しては否定的である事が判った。
 10. 他に学習したいソフトについては、何も無いが73%で他を圧倒し、次いで、Java言語が10%、HTMLとAndroidが共に7%であったが、MOS検定の1科目であるAccessは0%であった。また、従来、IT系の就職に強い資格であったC言語やCADは共に0%であった。なお、その他3%として1人が、「何が何だか解らない」と答え、受講生全体のITソフトに対する認識を代弁している。
 11. Facebookに関しては、毎日利用したり時々利用したりする受講生がいるが、受講生全体を平均すると、登録のみでほとんど利用しない、という結果になった。ちなみに、友達が「1人だけ」の1人とは筆者の事であり、「0人」の場合は登録はしたが友達リクエストをしていないか、もしくは、登録もしていない事を意味する。受講生全体を平均すると、Facebook上の友達は担当教師である筆者も含めて、ほんの数人程度、という結果になった。
 12. その他のSNSでは、現状では、アメバ・Yahoo・Bloggerのブログ系よりもTwitterやMixiの所謂、つぶやき系の利用者が多いという結果になった。
 13. なお、受講生が高校時代に履修した科目「情報」の成績は不明なので比較評価は出来ない。
 14. アンケート調査からは以下のような結果が得られた(表5)

表 5

No	調査項目	調査結果	備考
1	授業スピード	ちょうど良いからやや早い	
2	課題量	ちょうど良いというより 少し多かった	
3	教師の音量	ちょうど良いというより 僅かに大きい	座席位置とは関係が無い
4	授業中の喧騒	ちょうど良いかほんの少し静か	
5	授業の難易度	ちょうど良いというより やや少し難しい	難易度－スピード：弱い相関関係 難易度－課題量：弱い相関関係 課題量－スピード：相関関係無
6	授業時間の長さ	少し長い	難易度－授業時間：緩い相関関係 スピード－授業時間：相関関係無 課題量－授業時間：緩い相関関係
7	科目内容	ほぼ今のままで良い	
8	プロジェクター	ちょうど良い	最遠座席で少し小さいと感じる
9	別モニター	どちらでも良いが、 できれば利用したい	最遠座席で、とても利用したい、 もしくは、できれば利用したい
10	机の広さ	ちょうど良い	
11	Webテキスト	少し良かった	
12	Webテキストの 良かった点	いつでも家でも何度でも 自分のペースで見れる	
13	Webテキスト の画像	少しは良かった	
14	Webテキスト の改善点	何も無いが、僅かに文字と画像	教科書の説明の補充・補足のみ
15	授業方法	Webテキストだけで良い	教科書主体のハイブリッド利用
16	MOS検定	受験しても受からないから受験しない	授業難易度－MOS：強相関関係 スピード－MOS：強相関関係 授業課題量－MOS：強相関関係
17	他に学習したい ソフト	何も無い	
18	Facebook	登録のみでほとんど利用しない	
19	Facebook友達	ほんの数人程度	
20	SNS	BlogよりTwitter、Mixiが多い	

15. 今回得られた上記の調査結果を基に種々有機的に相関関係を分析して考察した結果、日本語文章の入力能力はかな漢字変換が原因でローマ字のタイピング能力に比べておおよそ半分以下になっている事が判ったが、試験（実技）の結果が悪い受講者は、文章入力能力と文章編集能力があまり向上しておらず、特に、文章編集能力に難が有る学生は、それが原因となって文章入力にも影響を及ぼし、結果として、試験結果が悪くなっている事が判明した。
16. 同じく、受講生が感じている授業の難易度は、彼等の課題点や欠席の直接の原因では無い事が判ったが、受講生が感じている授業内容の難易度とは詰まり文章編集の事であり、ま

- た、その能力の優劣が直接、成績に影響している事が判った。
17. 一方、更に、授業の内容が難しいと感じている受講生は、同時にWebテキストがとても良いと感じている事が判った。
 18. 同じく、課題量が多いと感じている受講生は、Webテキストがそれ程良いとは感じておらず、課題点が悪くなる事が判った。
 19. 以上の分析結果から、特に、前述のbig課題の未提出率と考え合わせると、今後、Webテキストでは、文章の編集機能の補足説明をより充実させると共に、Blogger、履歴書、教科書のWord編の編末にあるWord練習問題、Powerpoint最終課題等のBig課題の補足説明をより詳しく丁寧にすれば、課題の未提出率が改善され、成績も向上する事が判明した。

謝辞

尚美学園大学教育支援センターメディアセンターの黒川恵氏と中辻真紀氏はじめスタッフの皆様方には授業期間の始まる前から現在に至る迄の間に多大なお世話になっている事を心より感謝致します。

引用文献

- 今村二郎、(1992)「美佳の英文タイプライター テキスト練習編」、インターネット・フリーソフト
- 川本勝・山本全男、(1999)「大学の情報処理教育におけるホームページを用いたコースウエアの開発」、情報処理学会第59回全国大会
- 川本勝・山本全男、(1999)「大学のCAD教育におけるホームページを用いたコースウエアの開発」、日本教育工学会第15回全国大会
- 川本勝、(2000)「大学の情報処理教育におけるホームページを用いたコースウエアの開発の標準化について」、情報処理学会第60回全国大会
- 川本勝・福岡敬、(2000)「Web-site上における情報リテラシー教育用コースウエアのシステム設計について」、情報処理学会第61回全国大会
- 川本勝・福岡敬、(2000)「Web-site上における情報リテラシー教育用コースウエアのFAQシステムについて」、教育工学関連学協会連合第6回全国大会
- 玉木欽也編著、(2010)「これ一冊でわかるeラーニング専門家の基本」、東京電機大学出版局
- 三枝和・中庭愉生、(2012)「うなぎの危機」、日本航空株式会社、アゴラ2012年7月号、p30-34